

## 報告事項1. 市民意向調査の結果について

### 1. 調査の対象及び抽出方法

調査対象として、塩竈市に居住する満18歳以上(平成21年7月1日現在)の住民の中から2,000人を無作為抽出しました。

### 2. 回収・集計状況

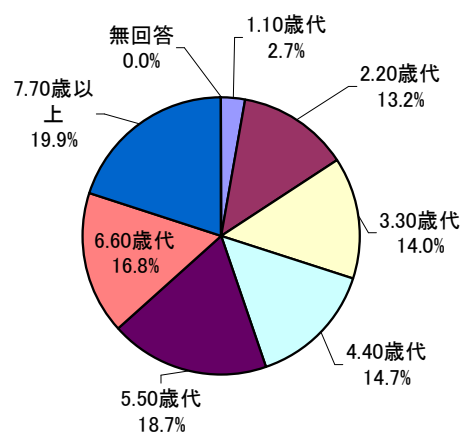
回収票数は831票、回収率は41.6%でした。集計では、年齢無回答の2票分を除いた829票で再集計しています。

### 3. 調査結果の概要

#### (1) 回答者属性

##### ■ 年齢別性別構成

	回答数	構成比(%)
10歳代	22	2.7
20歳代	110	13.2
30歳代	116	14.0
40歳代	122	14.7
50歳代	155	18.7
60歳代	139	16.8
70歳以上	165	19.9
無回答	0	0.0
合計	829	100.0



※実際の年齢構成と回収できたサンプルの構成比に大きなバラツキが生じたため、実際の年齢構成比で補正をしております。

#### (2) 設問2-1『塩竈市の住みやすさ』

塩竈市の住みやすさでは、「1.とても住みやすい」と「2.住みやすい」が合わせて444票(53.6%)と全体の半数を占めています。

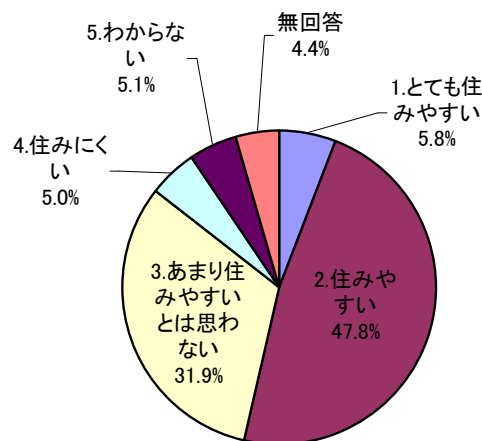
一方、「3.あまり住みやすいとは思わない」と「4.住みにくい」が合わせて306票(36.9%)となっています。

##### 子育て期世代における住みやすさの提供

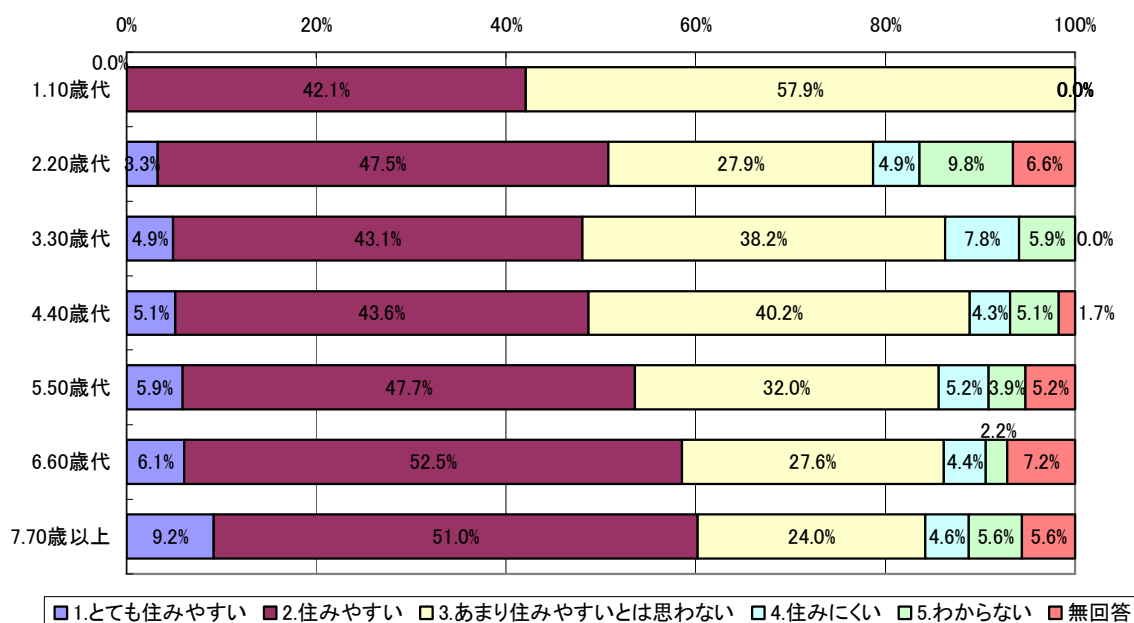
全体としては半数以上の市民が「住みやすいまち」と考えているが、30歳代、40歳代では他の世代に比べても「住みやすいまち」と考えている割合が低く、世代の半数以下となっている。20歳代、60歳代以上の世代では、「住みにくいまち」という回答が3割程度となっているが、30～50歳代の世代では4割程度となっており世代間の格差がみられる。

■全体

	回答数	%
1.とても住みやすい	48	5.8
2.住みやすい	396	47.8
3.あまり住みやすいとは思わない	264	31.9
4.住みにくい	42	5.0
5.わからない	42	5.1
無回答	37	4.4
合計	829	100.0



■年代別住みやすさ



(3) 問2-2『住みやすいと思う理由』(2つまで選択)

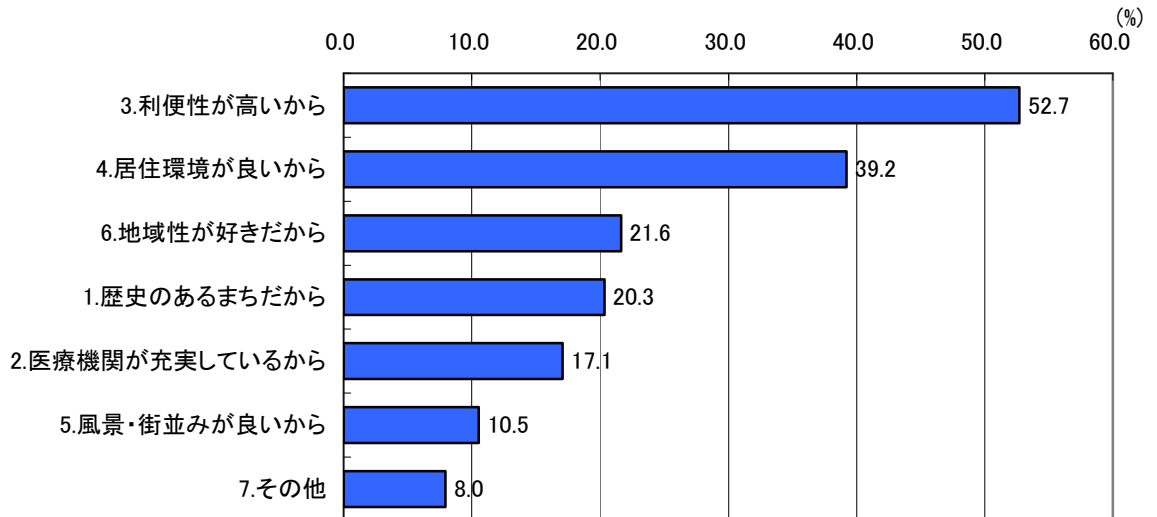
塩竈市を住みやすいと思う理由では、「3.利便性が高いから」が 234 票(52.7%)と最も多く、次いで「4.居住環境が良いから」が 174 票(39.2%)、「6.地域性が好きだから」が 96 票(21.6%)となっています。

高齢世代に対する「利便性」の向上と、若年世代に対する「居住環境」の向上

「住みよい理由」としては「利便性が高いから」が全体の50%以上の方からの回答を集めている。地区別では南部地区で高くなっており、仙台都市圏へのアクセス性が評価されていることがうかがわれる。また、20～50歳代では50%以上の回答であったが、60歳代以上では50%を下回っており、高齢者にとってそれ程評価は高くなっていない。また、浦戸地区では「利便性が高い」という回答は無かった。

「居住環境が良い」という回答では、30歳代までは30%程度、40歳代以降では40%を超える値になるなど、世代間で評価が分かれている。中でも若年層において居住環境の評価が比較的低くなっている。

それ以下の項目については、各年齢層で評価に差異もみられ、「地域の歴史性」については年齢層が高くなるにつれ、評価も高くなっている。



(4) 問2-3『住みにくいと思う理由』(2つまで選択)

塩竈市を住みにくいと思う理由では、「3.交通の便が良くない」が 106 票(34.6%)、次いで「5. 娯楽・遊戯施設が少ない」が 102 票(33.3%)、「4.買い物に不便」が 99 票(32.4%)の3つが顕著となっています。

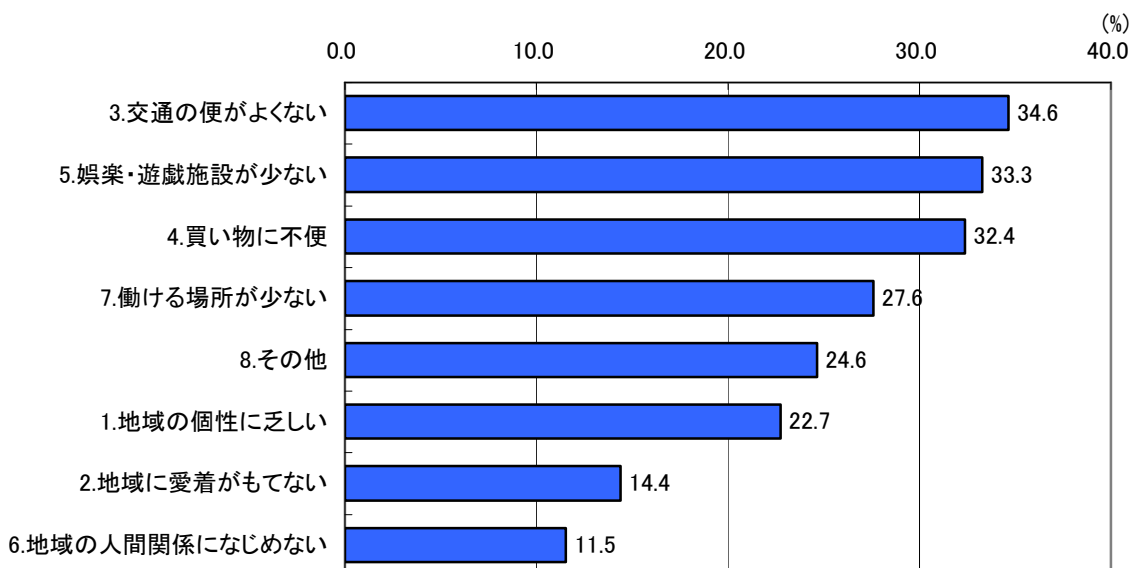
**高齢世代・子育て期の交通利便性の向上、高齢者の地域コミュニティ形成**

「住みにくい理由」としては「交通の便が良くない」「娯楽・遊戯施設が少ない」「買い物に不便」の3項目が全体の30%以上からの回答を集めている。

年代別では、20歳代では60%以上と圧倒的に「娯楽・遊興施設が少ない」が高くなっている。一方、高齢世代や30歳代では「交通の便が良くない」、40歳代では「働く場所が少ない」が上位にあがっており、各年齢によって差異が見られる。

地区別では、南部地区以外の地区において「交通の便が良くない」の割合が高くなっている。

また、他の世代では10%以下と低い値であった「地域の人間関係になじめない」という回答が、70歳以上の年代で37.5%と比較的高くなっている。



(5)問3『生活環境や行政サービス、施設等に対する満足度・重要度』

生活環境や行政サービス、施設等に対する満足度(満足+やや満足)では、「4.消防・救急体制の整備」が72.8%と最も高く、次いで「2.スポーツ振興」64.2%、「3.地域文化の継承」が62.2%となっています。一方、不満度(やや不満+不満)では「7.企業の誘致、新産業の創出」が81.5%と最も高く、次いで「3.中小企業の振興」が79.4%、「5.商業の振興」が78.4%となっています。

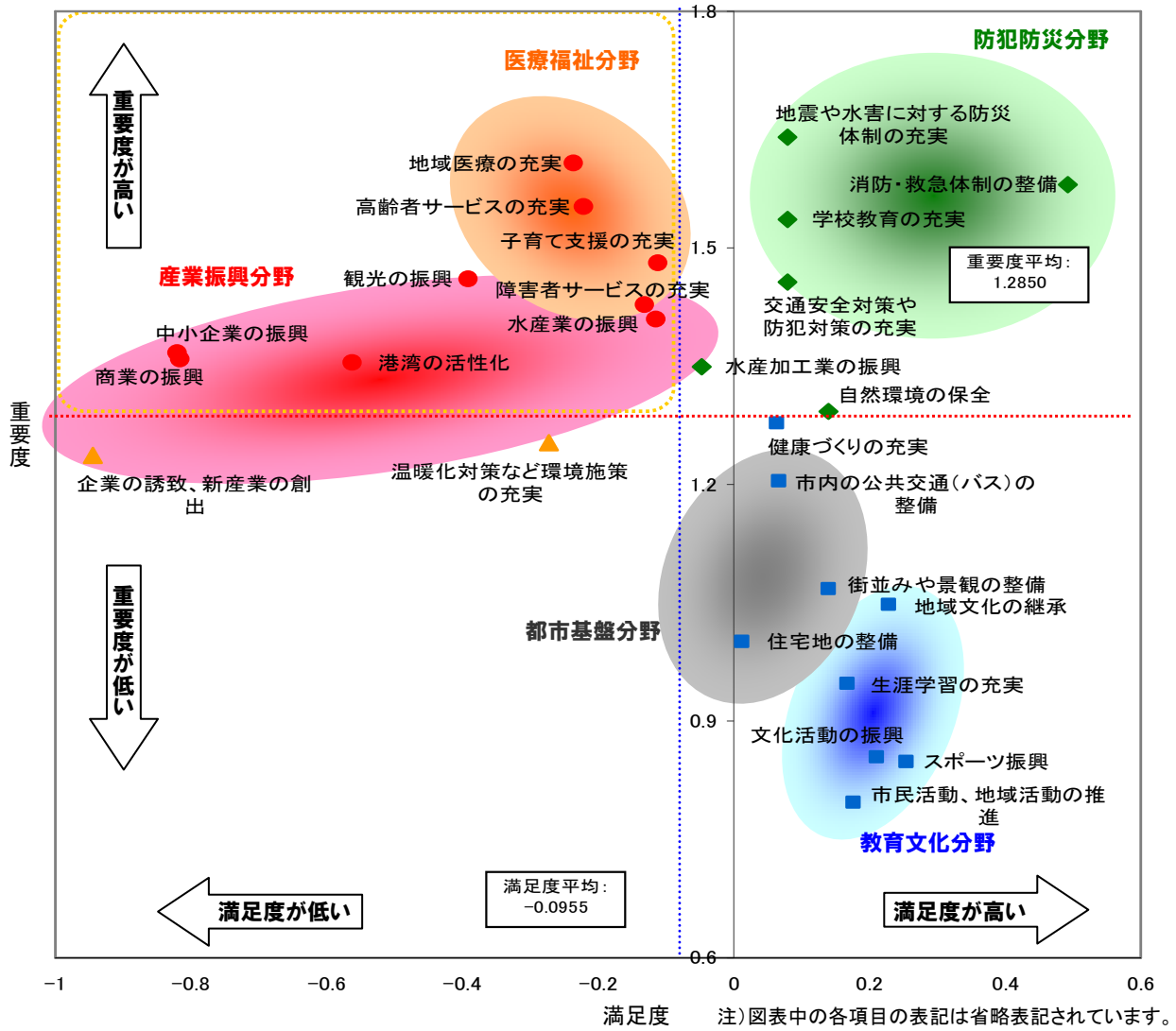
**満足度と重要度についてマトリックスによる分析を行った結果、「産業振興分野」と「医療福祉分野」において、市民の施策展開欲求が高い結果となった。**

- ・ 「産業振興分野」では現状に対する満足度が低く、重要度が高い結果となっている。
- ・ 「医療福祉分野」では、産業振興分野と比較して、現状の満足度は若干高いものの、重要度は産業振興分野よりも高くなっている。地域医療・高齢者福祉については全ての世代で高くなっており、20～40歳代において「子育て支援の充実」の重要度が特に高くなっている。
- ・ 「防犯防災分野」では、将来に対する重要度は高いものの、現状に対する満足度は高い。
- ・ 「都市基盤分野」や「教育文化分野」では、相対的な満足度は高いものの、重要度が低くなっている。

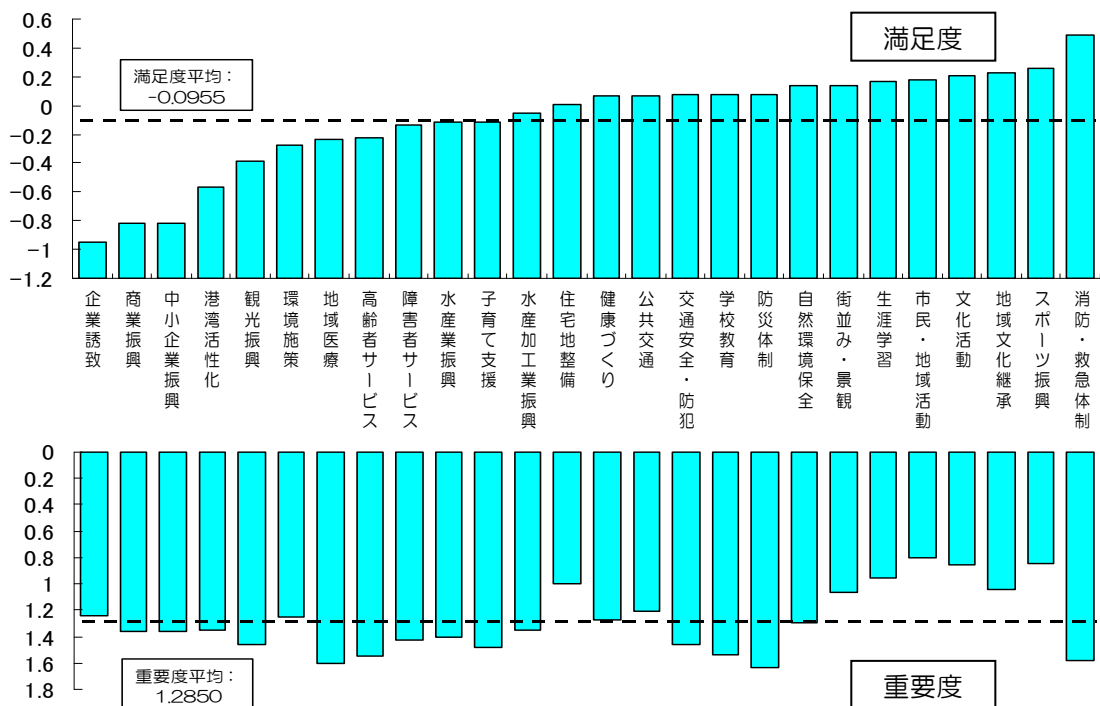
**現状の満足度が最も低いのは「企業誘致」「中小企業振興」「商業振興」等、地場産業の育成振興分野**

**市民が最も重要と考えるのは「自然災害に対する防災」「地域医療の充実」が挙げられる。**

## 満足度×重要度マトリックスによる分析



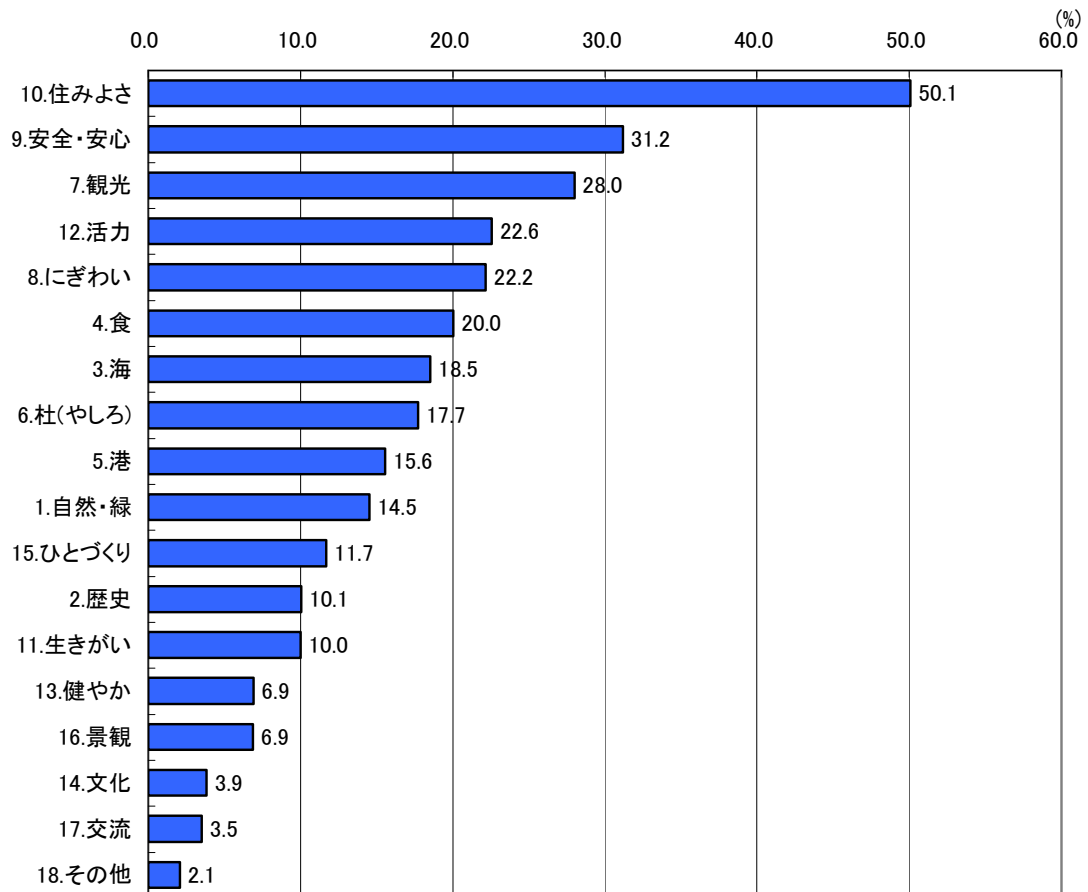
## 満足度・重要度の点数化による順位



(6)問4『まちづくりのキーワード』

今後のまちづくりのキーワードでは、「10.住みよさ」が415票(50.1%)と最も多く、次いで「9.安心・安全」が258票(31.2%)、「7.観光」が232票(28.0%)となっています。

- ・ 「住みよさ」が最も高くなっており、現状の「住みよいまち」という評価とともに、今後の改善要望としての「住みよさ」への関心が高くなっている事がうかがわれる。
- ・ その他「安心・安全」や産業面での「観光」など、直接的な生活に関わるキーワードが上位にきている。



(7)問6『まちづくりへの市民参加』

まちづくりへの市民参加では、「1.すでに参加している」「2.積極的に参加していきたい」「3.できるだけ参加していきたい」を合わせると 468 票(56.3%)を占めており、半数以上がまちづくりへの参加意向があるという結果となっています。

- すでに参加している人の割合は 2.8%にとどまっているが、「積極的に参加していきたい」「できるだけ参加していきたい」を合わせると半数以上の市民がまちづくりへの参加に対して前向きな意向を持っており、その人達を取り込む仕組みづくりが求められている。

	回答数	%
1.すでに参加している	24	2.8
2.積極的に参加していきたい	34	4.1
3.できるだけ参加していきたい	410	49.4
4.あまり参加したくない	94	11.3
5.参加したくない	41	5.0
6.分からない	212	25.5
無回答	15	1.8
合計	829	100.0

